

# 英語授業アンケートの分析

†有道祐子

## Analysis of a Survey on English Classes Yuko ARIMICHI

Abstract

This paper presents the results of a survey conducted in order to examine students' perspectives on their English proficiency, motivation for learning English, and expectations concerning the English classes offered by Takamatsu National College of Technology (TNCT). The results show that the students are eager to acquire English language skills, particularly speaking, listening, and writing abilities, as they believe these skills will be needed in the future. Moreover, these students are relatively positive towards various English teaching methods, such as small classes, remedial lessons, giving lessons in accordance with their English level, and so forth. The fact that the students are keen to make progress in their English abilities suggests that teachers should discuss possible changes in the English program at TNCT.

Key words: Students' needs, motivation, English proficiency

### 1. はじめに

近年、高松工業高等専門学校（以下高松高専）に入学してくる学生には、激しい英語の習熟度差が見られる。入試の成績を見ても、中には満点近い高得点取得者も、高学年になってTOEIC900点もの高得点を取得するような学生もいる。一方で、中学英語の徹底から始めなければならないほど英語を苦手とする学生も多数入学している。また、卒業後就職する学生と、大学に編入する学生がほぼ同数存在することからも、在校生の英語教育に対するニーズが多様化していると言える。

学生の英語力の格差と英語教育に対するニーズの多様化により、全ての学生の英語力を伸ばす英語教育プログラムの構築は困難を極めることが予想される。このような状況を鑑みて、今後の英語教育改善に生かすため、学生の自分の英語能力に対する評価、英語学習に取り組む意欲、英語の授業に対する意識等の現状を調査するため、学生にアンケートを実施することにした。

本論は、高松高専における英語教育をよりよいものにするために、学生の英語教育に対するニーズを明らかにし、本校における英語教育の望ましい方向性について検討することを目的とした調査報告である。

†高松工業高等専門学校 一般教育科

### 2. 調査概要

#### 2.1 アンケート調査の目的と内容

英語教育の目標は、学生の英語力を伸ばすことであるが、学生はどのような授業で英語力が身についたと感じているのか。また学生はどのような英語の力を習得したいと考えているのか。さらに、教育を実施する側が効果的と考える英語教育方法に対して、教育を受ける側の学生はどの程度効果的であると考えているのか。今後の高松高専における英語教育改善に生かすため、学生の現状とニーズを明らかにすることを目的に、アンケート調査を実施することにした。

アンケートは19項目で構成した。

Q1 から Q6 までは各回答者の英語力を問う質問

Q7 英語力を伸ばしたいと思うか。

Q8 「聞く」「話す力」「読む力」「書く力」「文法知識」「語彙力」の分野の中で、自分の力を伸ばしたいと考えているのはどれか。

Q9 将来英語は必要と思うか。

Q10 英語力は努力したら伸びると思うか。

Q11 英語で授業を実施したらより英語力がつくと思うか。

Q12 習熟度別の授業にしたらより効果的に学習できると思うか。

Q13 少人数で英語の授業を実施したら、より効果的に英語が習得できると思うか。

Q14 中学英語の復習を行なう補習的な授業があればいいと思うか。

Q15 編入試験対策の英語授業は必要か。

Q16 昼休みや放課後にネイティブスピーカーと会話できるようなサービスがあれば、利用したいか。

Q17 社会で活躍している先輩の英語体験について聞いてみたいか。

Q9 から Q17 までは、「強くそう思う」「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5段階から選択させた。

Q18 自分がこれまでを受けてきた英語の授業の中で最も力がついたと思ったのはどのような授業か。14個の選択肢の中から2つ選択させた。

Q19 4年生以上の学生への質問。4年生以上の英語の授業はどのように実施すべきか。現状通りか、必修にして数を増やすか、選択制にするか。

詳しい調査項目については APPENDIX(1)に調査用紙を添付した。

## 2.2. アンケートの実施

調査対象は1年生から4年生で、実施期間は11月第一週の英語授業時に、英語の先生方をお願いして行なっていた。調査にはマークシートと調査用紙を用い、質問(8)を除く(1)から(17)についてはマークシートに回答させた。有効回答者数は1年生158名、2

年生151名、3年生151名、4年生137名の合計597名であった。

## 3. 回答分析

### 3.1. 英語力に関する質問

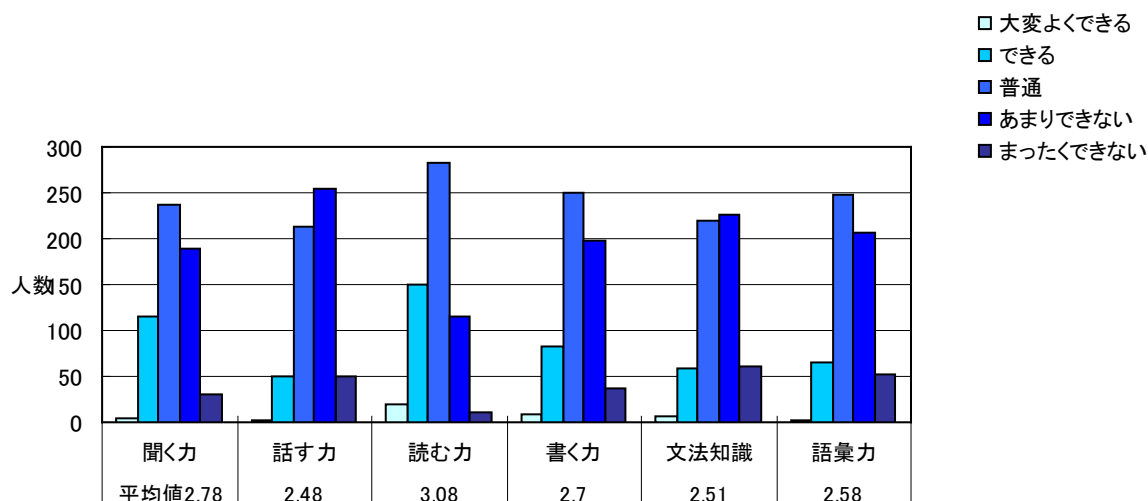
#### (1) 英語力の自己評価点

Q1 から Q6 まででは、回答者自身の英語力について、「大変よくできる」を「5」、「普通」を「3」、「まったくできない」を「1」とする5段階で点数化した。図1に、この自己評価点の度数分布と平均値を6分野別に示した。高松高専の1年生から4年生までが最も自信を持っているのは「読む力」であり、続いて「聞く力」「書く力」「語彙力」「文法知識」「話す力」となっている。

また、英語力の自己評価点を学年毎にまとめて平均点を算出し、表1に示した。これによると、1年生は比較的自己の英語力に自信を持っており、特に他の学年に比べて「話す力」を高く評価している。また、学年が上がる毎に自己の英語力に対する評価が下がっていくという傾向も見られる。

この学生の自己の英語力に対する評価の点数を、2.5点を基準として自己評価点が高いグループ(得意グループ、計342名)と低いグループ(不得意グループ、計255名)に分け、他の質問の分析において利用した。

図1 英語力自己評価点



	聞く力	話す力	読む力	書く力	文法知識	語彙力
1年生	2.92	2.70	3.08	2.81	2.57	2.64
2年生	2.74	2.45	3.19	2.74	2.58	2.64
3年生	2.73	2.38	3.05	2.67	2.56	2.52
4年生	2.68	2.33	3.01	2.56	2.31	2.50

表1 英語力自己評価点の学年比較

(2) 英語力を伸ばすことに関して

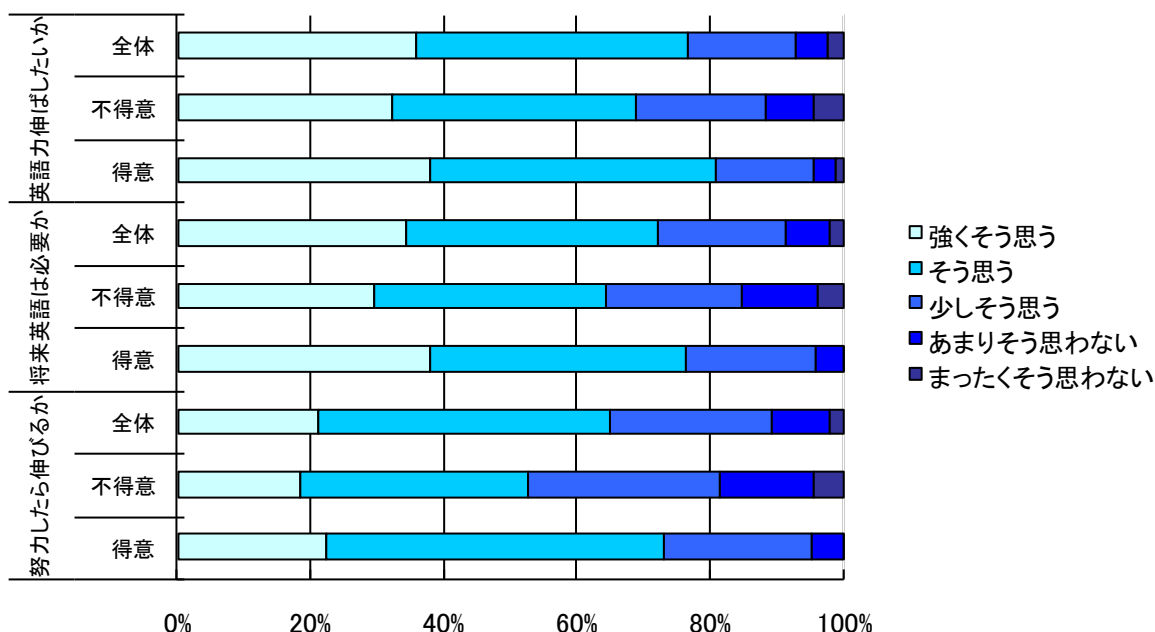
Q7で、「英語力を伸ばしたいかどうか」聞いたところ、36%の学生が強そう思う、41%がそう思う、16%が少しそう思うと回答し、5%があまりそう思わない、2%がまったくそう思わないと答えた。全体の93%もの学生が英語力を伸ばしたいと感じているということになる。この質問については、得意グループ不得意グループの間にあまり差は見られなかった。

Q9の、「将来英語は必要と思うか」という質問に対しては、34%が強そう思う、38%がそう思う、19%が少しそう思う、7%があまりそう思わない、2%がまったくそう思わないと回答した。全体の91%の学生が、将来英語は必要になると考えている。このQ9については、得意グループにはあまりそう思わないと答えた学生が4%、まったくそう思わないと答えた学生が0%であるのに対し、不得意グループでは、11%があまりそう思わない、4%がまったくそう思わないと回答している。不得意グループでは、英語を必要と感じていない学生の割合

が得意グループより高いという結果である。

Q10においては、「英語は努力したら伸びると思うか」について尋ねた。強そう思うと回答したのは21%、そう思うと回答したのは44%、少しそう思うと回答したのは24%、9%はあまりそう思わない、2%がまったくそう思わないと回答している。89%の学生が、努力すれば英語力を伸ばせると感じていることがうかがえる。しかし、Q10に関しては、得意グループでは73%の学生が強そう思うか、そう思うと回答しているのに対して、不得意グループでは52%の学生が強そう思う、あるいはそう思うと回答した。さらに、不得意グループの14%があまりそう思わない、4%がまったくそう思わないと回答しているのに対し、得意グループは4%があまりそう思わない、まったくそう思わない学生は皆無であった。この質問に関しては、不得意グループは得意グループに比べると、否定的な考えを持つ傾向にあるようだ。この結果については図2に示した。

図2 英語力を伸ばすことに関する質問



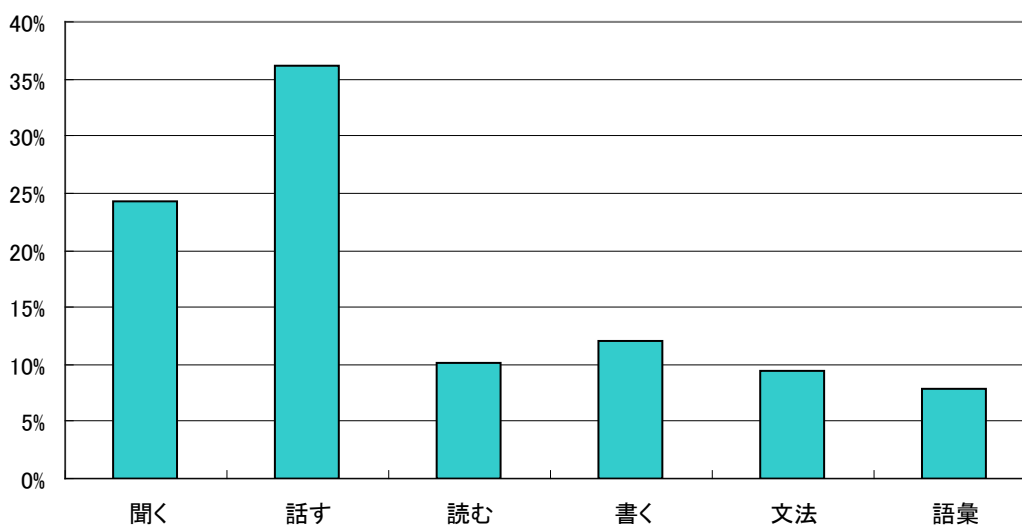
(3) 英語力を伸ばしたい分野

Q8において、『聞く』『話す力』『読む力』『書く力』『文法知識』『語彙力』の分野の中で、自分の力を伸ばしたいと考えているのはどれか 聞いたところ、回答総数の36%が「話す力」を、24%が「聞く力」を伸ばしたいと答えている。詳しい結果については、図3に示した。

学年別に回答を分析すると、1年生では「書く力」「文

法知識」「語彙力」についても伸ばしたいと答えた学生が1学年の回答全体の10%以上はいるのに対し、学年が進むに従って、「聞く力」「話す力」に回答が集中している。詳しい結果は、表2に示した。

図3 伸ばしたい英語力(全体)



	聞く	話す	読む	書く	文法	語彙
1年生	17%	27%	11%	17%	15%	12%
2年生	27%	37%	8%	12%	10%	7%
3年生	25%	42%	10%	12%	6%	5%
4年生	29%	39%	11%	7%	7%	8%

表2 伸ばしたい英語力の学年比較

3.2. 英語教育方法に関する質問

(1) 効果的と思われる英語指導方法、授業形態に関して

Q11 から Q17 までの回答を図4にまとめた。全体のものに加え、得意グループ、不得意グループ別の結果も示した。

Q11「英語で授業を実施すること」、Q12「習熟度別授業」、Q13「少人数授業」、Q14「補習授業」、Q15「編入対策授業」については、7割から8割の学生が導入に

ついて肯定的な考えを持っていると言える。ただし、「英語で授業を実施すること」に関しては、不得意グループの44%が導入に関して否定的である。また、「補習授業」については、不得意グループの方が、得意グループより導入を希望する割合が高い。

Q16「ネイティブスピーカーとの対話」については、36%の学生が希望すると回答している。Q17「先輩の英語体験」については57%の学生が、聞いてみたいと考えているということが分った。

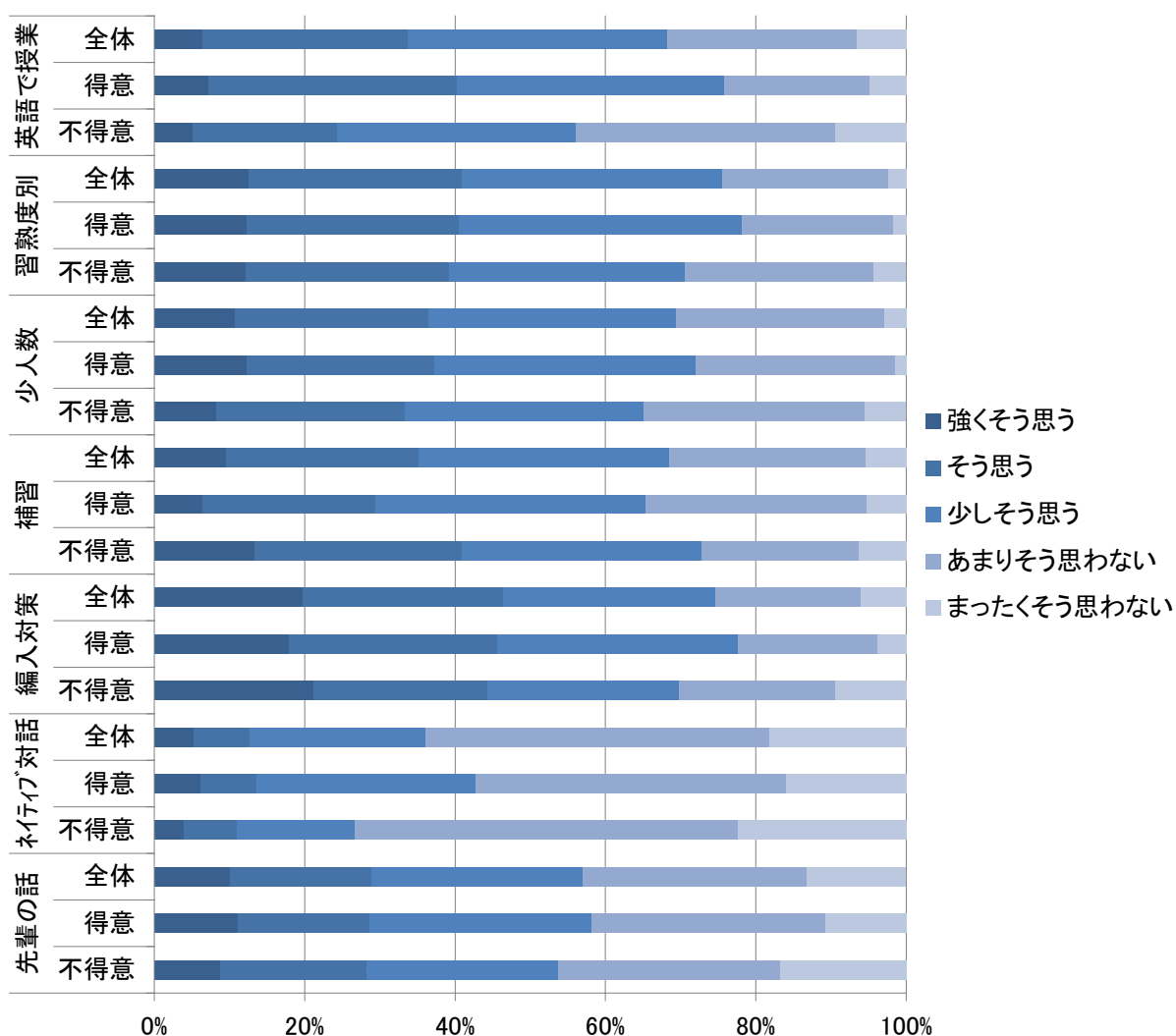


図4 英語教育方法に関する質問

(2) 力がついた英語の授業に関して

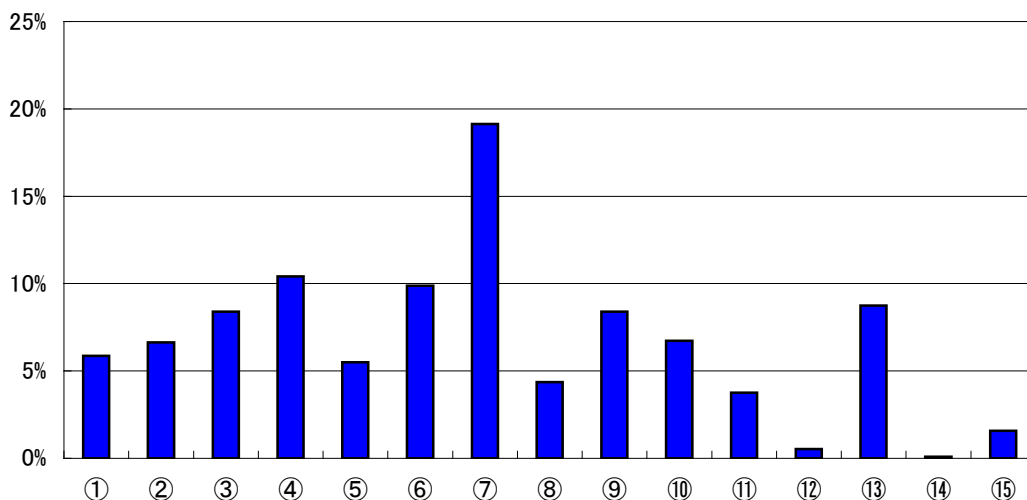
Q18 自分がこれまでに受けてきた英語の授業の中で最も力がついたと思ったのはどのような授業か。14個の選択肢の中から2つ選択させた。結果については図5に示したが、全体の19%の学生が、「文法の授業」と回答しており、14個の選択肢の中で最も支持率が高かった。学年別に集計しても(表3参照)、どの学年においても「文法」の割合が一番高かった。また、回答を得意グループ不得意グループ別に分析したが、両者の間に大きな差異はなかった。

英語の歌を取り入れた授業は主に2年生を対象に実施されており、1年生は未受講のため他の学年と比較すると支持している割合が低い。また、速読の授業も

2年次と4年次で実施されているため、1年生では他の学年よりも支持率が低い。

また、4年生の機械工学科や電気情報工学科では、今まで一度も多読の授業が実施されていないのにも関わらず支持率が高い(両学科合わせて18人が選択)のは、学生には速読と多読の授業内容の区別がついていないということが考えられる。他の学年でも同様のケースが考えられるため、この「速読」「多読」授業については学生がどちらの授業のつもりで選択したのか不確かな部分が大いと思われる。

図5 力がついた英語授業(全体)



- ① ネイティブスピーカーの授業
- ② ゲームを取り入れた授業
- ③ 英語の歌を取り入れた授業
- ④ 多読の授業
- ⑤ 速読の授業
- ⑥ 熟読の授業
- ⑦ 文法の授業
- ⑧ 参加型の授業
- ⑨ リスニングの授業
- ⑩ 英語でやり取りする授業
- ⑪ ライティングの授業
- ⑫ 工学系の英語を学ぶ授業
- ⑬ 単語の学習
- ⑭ 普段と違う授業 (具体例を記述)
- ⑮ その他 (具体例を記述)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
全体	6%	7%	8%	10%	6%	10%	19%	4%	8%	7%	4%	1%	9%	0%	2%
1年生	6%	7%	3%	10%	2%	13%	23%	6%	6%	6%	7%	0%	12%	0%	1%
2年生	7%	8%	12%	13%	4%	8%	18%	5%	7%	5%	3%	0%	6%	0%	2%
3年生	4%	6%	11%	6%	10%	9%	18%	3%	11%	9%	3%	1%	7%	0%	2%
4年生	6%	5%	9%	13%	6%	9%	17%	4%	9%	8%	2%	0%	10%	0%	2%

表3 力がついた英語授業の学年比較

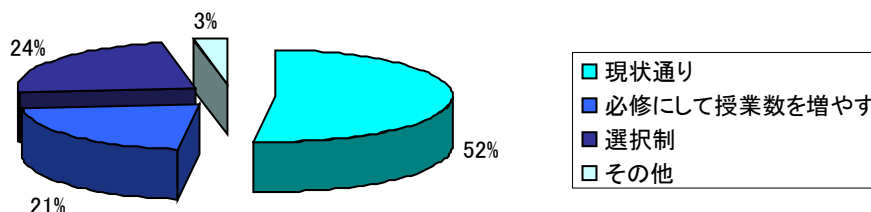
(3) 4年生以上の英語授業について

現在高松高専においては、4年生以上の英語の授業は、4年生必修(3単位)、5年生選択(2単位)のみである。この英語の授業数と必修とするか選択とするかについて、Q19で4年生以上の学生に、「現状通りか、必修にして数を増やすか、選択制にするか」、またその理由も尋ねた。52%の学生が現状通りと回答し、21%が必修にして数を増やす、24%の学生が選択制にする、3%の学生がその他を選択した。(図6参照)

「現状通り」を選択した学生の理由としては、ほとんどが「現状に満足している」というものであった。「必修にして数を増やす」を選択した者の理由は、「英語力を身につけないといけない」というものが多かったが、その他にも興味深い理由が記述されていた。(以下原文通り記載)

- ・英語は毎日少しずつやるものだと思うので、45分でもいいので毎日入れるべきだと思う。
- ・必修にしないと勉強しないと思うから。

図6 4年生以降の英語授業について



「選択制にする」を選択した学生の中には、「みんなに上がってほしいから」「英語を勉強したくない」といった否定的意見も極少数あったが、選択した学生のほとんどは英語を学習したいという意欲に満ちた理由を記述している。

- ・レベル別に選択制にしてほしい。
- ・少人数の方がよい。
- ・やる気ある同士の方が勉強効率が上がる。
- ・勉強したい人が勉強できるようにすればいい。
- ・今のような授業と編入対策の2つを作り選択制にする。
- ・多読やリスニング等から1つ選ぶようにする。  
(人によりしたい英語が違うから)

#### 4. 考察

高松高専の1年生から4年生までが最も自信を持っているのは「読む力」であり、続いて「聞く力」「書く力」「語彙力」「文法知識」「話す力」である。また、英語力の自己評価点は、1年生から4年生までの6分野平均で2.69点であった。決して高い点数とはいえないかもしれないが、日頃の英語授業や試験への取り組み態度を見てみると、もっと低い評価になるのではと考えていたので、認識を新たにした。

アンケートの結果から、高松高専の在學生は、英語は将来必要と感じており、自己の英語力、特に「話す力」「聞く力」そして「書く力」を伸ばしたい。しかも、英語力は努力すれば伸びると考えているということがうかがえた。英語の授業を提供する側としては、大変勇気づけられる結果であり、また学生に英語力をつけ

させるような授業を工夫する必要性を痛感させられた。

教師側が効果的と考えている授業形態、指導方法については、学生も効果的と考えているということがうかがえたので、ネイティブスピーカーとの対話や卒業生の英語体験講話など、来年度からでも十分導入可能な活動については計画していきたい。また、現在1クラスを二つに分けて実施している授業においては、来年度からでも習熟度別授業が導入可能であるので、早急に検討したい。さらに、編入試験対策や補習授業など、授業内外で実施できそうなものも、英語科内で話し合い実施を検討していきたい。

4、5年生の英語授業についても、学生はかなり真剣に考えているということがアンケートからうかがえた。今後の実施方法について検討していく必要がある。今の時点で、来年度からの授業時間数を増やすことは困難であるが、5年生において編入対策授業を実施することは十分可能である。現行の5年生の授業内容について再検討したい。

伸ばしたい英語力のアンケート結果から、1年生は総合的に英語力をつけたいと考えていることがうかがえる。現在1年生に対しては総合英語を実施していることは、ニーズに合っているとと言える。

力のついた授業を選択させたところ、1年生は熟読で力がついたと答えた者の割合が高かったが、1年次には授業で熟読を行っている。また2年生は歌を取り入れた授業で力がついたと回答した割合が高いのは、2年次にそのような授業を実施しているからと考えられる。3年生ではリスニングで力がついたと答えた学生の割合が高いが、3年生にもリスニングの授業がある。2年生以降で速読、多読で英語力がついたと回答した者の割合が高いのも、そのような授業を受けているか

らと言えるのではないか。これは、概ね現行の授業で力がついていると学生たちは考えているためではないか。ただし、学生たちがファミリーアティーの枠内で自分の今受けている授業を肯定視している可能性もある。自分のニーズと照らし合わせ、自分にとって最良の授業方法を意識化するには至っていないのかもしれない、ということも考慮すべきである。また、学年が上がるにつれて自己の英語能力に自信を失っているという結果も得られたので、この点については更なる分析で相関関係の有無を明らかにしていく必要がある。

アンケート結果の中で不可解なのは、「文法知識」に関してのことである。今回アンケートに回答した者の9%のみが「文法知識」を伸ばしたいと答えており、6分野中5番目という低さであった。また、自己英語能力評価の「文法知識」に関しては、平均は2.51点で、6分野中5番目の低さであった。つまり、「文法知識」はそれほどないと感じているのにも関わらず、「文法知識」を伸ばしたいとはあまり考えていない。それなのに、最も力がついたと思う授業は「文法の授業」が全体の19%で1位であり、どの学年でも最も高い支持率であった。文法の授業は、勉強して力がついた気分にはなるけれど、実は身に付いておらず自信が持てないということであろうか。あるいは、「文法知識」については授業でのみ力を伸ばせばよく、自分で努力してまで力をつけたいとは思わない、ということか。この点

については、半構造的面接等の質的調査で詳しい要因を探っていきたい。

## 5. まとめ

今回実施したアンケート結果から、学生はかなり英語教育について真剣に考えているということが明らかになった。学生の要求にすべて応じることは不可能であるし、またそれが望ましい授業の実現につながるとは必ずしも言えないが、毎日授業を受け、教師を観察し、その授業を評価している学生の意見は、授業改善にとって大変有益なものになり得る。現状に満足することなく、今回明らかになった高松高専の学生の現状とニーズを、今後の英語教育改善に生かしていきたい。分析に時間を要するとは思いますが、今後も自由記述形式のアンケートや質的調査などを実施し、学生の声を授業改善に生かす工夫を続けていきたい。

今回のアンケートについては、設問の中に、英語の能力観の他、編入試験対策、補習授業、習熟度別授業、先輩の英語体験やネイティブスピーカーとの英会話サービスなどの要望を問うたが、学生のニーズの明確化、モチベーションの維持については、単純集計、クロス集計しか実施していないため、その関係性や背景の分析が不十分である。今後、更なる多変量分析で様々な相関関係を明らかにしていきたいと考えている。

## 参考文献

1. 金川由紀・三崎リン・川島紀美 「学生のニーズに答える英語授業の構築を目指して—アンケートから見る英語授業への要望—」 『平安女学院大学研究年報』第6号 pp. 97-105, 2005

2. 高橋妙子 「学生たちは授業に何を期待しているか—アンケートから」 『英語教育』2004年4月号 pp. 28-29, 2004

3. 宮田学・鹿野緑他 「生徒がつけた英語の通信簿」 『英語教育』2004年10月増刊号 pp. 58-65, 2004



Appendix 1

英語授業アンケート

\_\_\_\_年 \_\_\_\_組 \_\_\_\_番氏名\_\_\_\_\_

この調査は、みなさんが英語教育についてどのような考えを持ち、高専での英語授業に何を期待しているのか、について教えてもらうために行うものです。これからこの高専で語学プログラムをどのように展開していけばよいのかについて検討する大切なデータとなります。アンケートには誠意を持って取り組むようお願いいたします。回答には率直かつ正直にあなたの気持ちを反映させてください。また、あなたの気持ちに当てはまるものがないときには、もっとも近いものを選んで書くようにしてください。

※ (1)~(17)までは、マークシートに記入してください。

現在のあなたの英語力について、次の6つの分野に分けて自己判断すると、5段階評価のどれにあたると思いますか。

- (1) 聞く力 (2)話す力 (3)読む力 (4)書く力 (5)文法知識 (6)語彙力

大変よくできる	できる	普通	あまりできない	まったくできない
A	B	C	D	AB

(7) あなたは自分の英語力を伸ばしたいと思っていますか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(8) 次の6分野の中で、自分の力を伸ばしたいと考えているのはどれですか。1つか2つ選んでください。

聞く力	話す力	読む力	書く力	文法知識	語彙力
A	B	C	D	AB	AC

(9) あなたは将来社会人になったとき英語は必要だと思いませんか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(10) 英語力は努力したら伸びると思いませんか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(11) 英語で授業を実施するとより英語力がつくと思いませんか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(12) 習熟度別（レベル別）の授業にしたら、より効果的に学習できると思いませんか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(13) 少人数で英語の授業を実施したら、より効果的に英語が習得できると思いますか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(14) 中学英語の復習を行なう補習的な授業があればいいと思いますか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(15) 編入試験対策の英語授業は必要だと思いますか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(16) 昼休みや放課後にネイティブスピーカーと会話ができるようなサービスがあれば、利用したいと思いますか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

(17) 社会で活躍している先輩の英語体験について聞いてみたいと思いますか。

強くそう思う	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
A	B	C	D	AB

※ (18)(19)については、この紙に直接記入してください。

(18) 自分がこれまでに受けてきた英語の授業の中で、最も力がついたと思ったのはどのような授業でしたか。 2つ○をつけてください。選択肢にない場合は、どのような授業かをその他の欄に書いてください。また、その理由についても具体的に書いてください。

ネイティブスピーカーの授業	文法の授業
ゲームを取り入れた授業	参加型の授業
英語の歌を取り入れた授業	リスニングの授業
多読授業	英語でやりとりする授業
速読授業	ライティングの授業
熟読（ゆっくり丁寧に読み方を指導する）授業	工学系の英語を学ぶ授業
普段と違う授業（具体的に_____）	単語の学習
その他 _____	

(19) 4年生以上の学生への質問です。 4年生以上の英語の授業はどのように実施するべきだと思いますか。

現状通り（4年必修5年選択）      必修にして授業数を増やす      選択制にする  
 その他 \_\_\_\_\_  
 理由 \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。